

トツプの流儀

上宝村（現高山市上宝町）で家業の建設会社を

経営する傍ら、二〇〇二

年から農業を始めたのは

「地元の雇用を守る」と

いう考えが根底にあった

からです。〇〇年ごろか

ら公共事業が激減し、こ

のままじゃやっていけな

いと。社員と家族を路頭

に迷わせることはできな

い。それが働き口が少な

い田舎の企業の使命だと

思う。

〇二年から社内に農業

部門を立ち上げて、野菜

を育て始めた。味には自

信があったけど、市場を

探るノウハウも販路もな

いから売れない。結局値

段を安くして売り出した

が、値段は簡単には戻せ

ない。「こんなことでは

ダメだ」と、三年後には

米の栽培を本格的に始め

ました。徹底的においし

いお米を作って、生産原

価に見合った価格で買っ

てもらったことを大原則に

した。

みんなが農業の素人。

生産現場から販売現場で

一から全部勉強しまし

た。でも、澄み切った空

気と清らかな水など上宝

には上質な米ができる環

境はそろっていたから一

工夫すれば、日本一にな

る自信はあった。

野菜の失敗を教訓に全

国に商品をどうアピール

できるか考えた。そのた

めには「米・食味分析鑑

定コンクール」で上位入

賞することが目標になっ

た。「おいしい」と、ひ

と口で言っても味のとら

え方は人それぞれ。それ

なら、おいしさを数字で

「見える化」できたもの

をお客さんに提示しよう

と考えた。

わに 和仁農園社長 和仁 松男さん(67)



わに・まつお 1947年、上宝村（現高山市上宝町）生まれ。神岡工業高校（現飛騨神岡高校）卒業後、和仁建設入社。74年に専務取締役、89年に

社長に就任。現在は、高山市の米のブランド化を目指す飛騨高山おいしいお米プロジェクトの会長などを務める。

ふるさとを守る農業

「見える化」できたものをお客さんに提示しようと考えた。作業工程は電子データも「見える化」し誰でも分かるようにした。責任者がいなければできないというそういう状況はで

きないように。品質に非常に重要な時期がある。

例えば、稲のカメムシ被害を防ぐためにあぜ道の草刈りが絶対に必要。数百枚も水田があれば、当然やる時期も違ってくる

らデータを取り、いつやるのかを共有している。時期を逃さないためにも見える化は非常に重要な

点です。人間でなく、米の都合に合わせて栽培す

れば、食味も増したおい

しい米が自然とできるよ

米の都合に合わせた栽培の大切さを語る和仁社長＝高山市上宝町の和仁農園本社で

会社概要

和仁農園 和仁建設の農業部門から2009年独立。栽培する米は、国内外の米が競う「米・食味分析鑑定コンクール」で07年から5年連続入賞、10、11年にはミルキークイーン「乙女ごころ」が2年連続最多得票の金賞に輝くなど殿堂入りしている。現在は27畝で年間約60トンを生産する。従業員12人。高山市上宝町。

うになった。私たちの最終目標は「ふるさとを守る」と。このままでは上宝の人口流出は進み、二十

（聞き手・酒井翔平）